



職種を超えて、ユニフォームを統一！ より深まったチームとしての団結力。

「安心の地域医療を提供するJCHO」を掲げる地域医療機能推進機構（JCHO/ジェイコー）、東京高輪病院。こちらでは、アシックスのユニフォームを看護師とコメディカルの方にご着用いただいています。都心部で地域に根付いた医療を提供される東京高輪病院様に、ユニフォームが果たす役割について、採用のいきさつも含めてお話を伺いました。



看護師とコメディカルが共同でユニフォームを選定。

アシックスのユニフォームをご採用いただいた経緯をお聞かせください。

黒川さん（看護師長） 看護部のユニフォームを切り替える際に、看護師とコメディカルが同じものを着用したほうが一体感が出るのでは、ということになり、共同で委員会を立ち上げました。

小竹さん（副診療放射線技師長） コメディカルの以前のユニフォームは伸縮性がなく、薄くて逃げやすいものでした。この機会にぜひ変更したいと思い、起案書を作成してスタッフにアンケートを取り、皆の意見を集約してリニューアルすることになりました。

アシックスに決めていただいた理由を、教えていただけますか？

黒川さん 20着以上のサンプルを取り寄せて、試着週間を設けました。6名が実際に着用して仕事をし、ドクターや患者様にも見ていただきました。その結果、着用感や見た目プラスの意見が多かったのがアシックスです。

堀口さん（副看護部長） 何度も洗濯試験を行い、耐久性に問題がないことも証明されたため、採用に至りました。



実際の着用感についてはいかがでしょうか？

金山さん（リハビリテーション士長） すごく良いですね。リハビリは患者様を起こしたり歩かせたり、スポーツ復帰を目指す方には跳躍指導を行うなど、ダイナミックな動きを伴う場面があります。従来のは伸縮性がなく動きづらかったのですが、これに変わってから格段にパフォーマンスが上がりました。デモをお見せする際もしっかり動けるので、患者様のフィードバックも良くなったと感じます。また同じユニフォームを着ていることで、スポーツと同じように団結力が増すというか、一緒にがんばろうという気持ちわいてきます。

武石さん（看護師） 私は看護師なのですが、同じユニフォームを着用しているので、患者様からリハビリ師や技師だと思って話しかけられることが増えました。そんな時も「職種が違うからわからない」ではなく、チーム医療の一員として、どんな場面でもしっかり対応しようという気持ちになりました。

高輪という都心部で、「地域に根ざす」ということ。

地域医療への貢献を理念に掲げておられますが、東京高輪病院様ならではの取り組みを教えてください。

堀口さん この立地だからこそ、この地域にできることを考えています。特色としては、品川駅やホテルに近いという地域柄、外国人の方が多く来られるため、国際部を設置しています。英語ができる看護師を配属し、病気のアセスメントのほか、医療通訳による診断書の翻訳や、旅行会社との連携で旅行保険のコーディネートなども行っています。

佐藤さん（看護部長） 大使館や近隣のホテルとも連携しており、2020年のオリンピックに向けてはJR東日本と連携し、熱中症などの対策に当たります。

まさに、この立地ならではの地域貢献の形ですね。地域医療実践のため、チーム医療も非常に大切にされている印象です。

佐藤さん 急性期から回復期、地域での生活まで切れ目なくフォローするには、それぞれのスキルや知識を生かして多職種が連携することが大切です。その中で、同じユニフォームを着ていることで部署や担当と関係なく、患者様に真摯に対応しようという気持ちが生まれたことは嬉しいですね。

堀口さん 同じユニフォームを着たという結果だけでなく、協議を重ねて選定したプロセスも重要でした。事務スタッフも支給枚数や洗濯回数を交渉してくれましたし、今回の切り替えをきっかけに、職種を超えた連携がより強まったように思います。

では最後に、将来に向けた展望などを教えてください。

佐藤さん 医療と看護を通じて、地域で安心して暮らせることを支えていきたいと思っています。これからは在宅医療まで支える役割が求められますから、その中でリーダーシップを発揮し、人として人と向き合える。そんな人間性を大切にしていきたいと思っています。

今日はお忙しい中、ありがとうございました。ご着用いただいている皆様からも「通気性が良く、蒸れにくいので快適」「夜勤で長時間着用してもサラッとしている」「腰を落として座っても突っ張らない」などのご感想をいただき、大変うれしく思います。これからも皆様のお仕事のパフォーマンスやモチベーションの向上にお役立ていただけるよう、精進してまいります。